

『爾前二乗菩薩不作仏事』と『速証仏位集』について

関 戸 堯 海

はじめに

日蓮聖人の『爾前二乗菩薩不作仏事』は、真蹟身延曾存で、著作年時については『境妙庵目録』は康元年中（三十五歳頃）、『日誦目録』『日明目録』などは正元元年（一二五九・三十八歳）とする。著作地も『高祖遺文録解題』は岩本とするが、この点については対告衆もふくめて定かではない。

『爾前二乗菩薩不作仏事』では、爾前経で二乗は成仏できないとされるが、二乗や一闍提が成仏しなければ菩薩の成仏もあり得ないことを『楞伽経』『涅槃経』『一乗要決』などを文証として論証する。その末文に慈覚大師円仁作とされる『速証仏位集』および、天親菩薩の『仏性論』縁起分などが引用されるが、これまで『速証仏位集』の内容についてよく知られてこなかったため、『仏性論』の引文が『速証仏位集』の文中にあることなどが明確にされてこなかった。今回、叡山文庫所蔵の『速証仏位集』の貴重な写本を閲覧する機会を得たので、その内容を紹介して日蓮聖人遺文研究の一助とするものである。

『速証仏位集』の引用

『爾前二乗菩薩不作仏事』と『速証仏位集』について（関戸）

『爾前二乗菩薩不作仏事』と『速証仏位集』について（関戸）

『爾前二乗菩薩不作仏事』の二番目の問答では、『涅槃經』『一乗要決』『金鍾論』と『速証仏位集』を引用して、眞の十界成仏の教えは『法華經』以外にないことを論証する。ここでは「慈覺大師の速証仏位集に云く」と引用されるが、すぐに「天親菩薩の仏性論縁起分の第一に云く」と『仏性論』の文が出現する。この『仏性論』の文が『速証仏位集』一卷の文中に引用されることについては、すでに論じたところであり、今回の検証によっても再確認できたが、これまでの遺文解説書では未確認のため不明とする場合が多いようである。

『録内啓蒙』には「上來皆悉く慈覺速証仏位集ニ仏性論ヲ取意シテ引ルナルヘシ」「未見三本文¹」とあり、『速証仏位集』については未確認であるが『仏性論』は取意引用されるものであろうとする。また『録内扶老』にも「此書名、論議抄ナド二拳²之耶更可³考」とあり『速証仏位集』の引用については『録内扶老』『御書鈔』も未確認で取り扱いに苦慮していたようである。

『爾前二乗菩薩不作仏事』における『仏性論』の引用について『仏性論』巻一・縁起分第一の原本と比較してみると部分的には一致するものの原典とはかなり異なる。一方で『速証仏位集』中の引用文とは、ほぼ一致するので、『仏性論』は『速証仏位集』からの引用であるとみることができる。ただし、『爾前二乗菩薩不作仏事』の最後は「日蓮 花押」とあり、『速証仏位集』の引用で終わっていることになるが、内容的にみると途中で中断しているようである。『日蓮聖人遺文辞典（歴史篇）』では、『爾前二乗菩薩不作仏事』について『六凡四聖御書』（図録六）と一連の御書ではないかという説があることを示し、『速証仏位集』については龍堂の『山家祖徳撰述篇目録』上に『速証仏位集記一卷或は云八卷』とあることを紹介するが「未刊書のため未見」と述べる。引用文の内容的な問題については後述するが、解明できていない問題点がいくつか存在していることを指摘できる。

叡山文庫所蔵の書写本について

叡山文庫所蔵の『速証仏位集』（真如藏二三三）は、一冊で二十九丁（二十九丁の表裏は白）なので、それほど厚い写本ではないが、外題に「速証仏位集記目八」とあるように一冊のなかに一巻から八巻が収録されている。文字は、はつきりとして読みやすく保存状況も良好であるが、返り点や送り仮名については、付されている部分とそうでない部分とがあり一定ではない上、他筆ではないかと思われる部分もある。また字句の異同について異本に関する書き入れもみえる。

書写年代および書写した人物については、末尾（二十七丁裏から二十八丁裏）に

于時永享九年^{丁巳}九月廿二日於台嶺西塔北尾

花王房遂書写訖為令法久住利益有情也

南無山王大師満山三宝哀愍護念 尋秀

とあるので永享九年（一四三七）九月二十二日に、比叡山の西塔北尾の花王房にて、尋秀が「令法久住」「利益有情」を目的として書写したことがわかる。尋秀の伝記については調査中であるが、末尾（二十八丁表から裏）に『速証仏位集』（ここでは「山家祖徳撰述篇目錄」と同様に『速証仏位集記』と記す）をはじめとして尋秀が書写したものとと思われる二十八篇の書名がみえる。それらの書は『速証仏位集記』八巻『融通仏法記』三巻『通達菩提（心）義記』一卷『四土不二義記』一卷『百界千如記』三巻『談義集』三巻『迹門義語記』一卷『本門融通義』一卷『己心中義記』一卷『安樂行品私記』三巻『照了分別義記』一卷『隨情智記』一卷『半与半奪義記』一卷『一向隨情義記』一卷『自

爾前二乘菩薩不作仏事』と『速証仏位集』について（関戸）

『爾前二乗菩薩不作仏事』と『速証仏位集』について（関戸）

利々他心平等義記』一卷『自他不二記』一卷『一心自行』一卷などの円仁あるいは円仁作とされる著作、および天台止観を注釈した書で、『法華玄義』『法華文句』の両私記とともに証真の代表的著作である『止観私記』十巻などであり、この点からすれば尋秀は円仁著作を中心とした天台関係書籍の書写に努めた比叡山の僧であると推察できる。

『爾前二乗菩薩不作仏事』における『速証仏位集』の引用

『爾前二乗菩薩不作仏事』では、二乗が成仏しなければ菩薩も成仏しないことを明らかにするために、『速証仏位集』を引用して『法華経』の成仏論を論じているが、そこでまず『速証仏位集』の巻第五より次のように引用する。（返り点・送り仮名は『昭和定本』によるので、本稿末の『速証仏位集』の写本とは異なる点もある。また字句の異同もわずかながらみえるので傍点を付した）

慈覚大師速証仏位集云第一唯今経力用満^ス仏下化衆生願^ヲ。故出^レ世説^レ之^ヲ。所謂諸仏因位・四弘願・利生断惑・知法作仏。然因^ニ因果満^{ナレハ}後三願満^モ。利生一願甚^ク難^シ満^ス。彼華嚴力不能^ニ十界皆成^{スル}。仏道。阿含・方等・般若^モ不^レ爾^{ナリ}。後番五味不能^ニ皆成仏道^{ナル}。今此妙経十界皆成仏道。分明。彼達多^{スル}無間^ニ授^ケ天王^ノ記^ヲ龍女成^ル。十羅刹女悟^{モリ}。仏道。阿修羅受^モ成仏^ノ総記^ヲ。人天・二乗・三教菩薩入^ル。円妙^ノ仏道。経云如^ニ我昔所願^ノ今者已満足^シ。化^{シテ}一切衆生皆令^ム入^ル。仏道云云。衆生界不^レ尽故雖^レ有^リ未^レ入^ル。仏道衆生^ニ然^ル。十界皆成仏^ス。唯在^リ今経力^ニ。故利生^ス。本懐^{ナリト}云云。（『昭和定本』一四六―七頁㊟）

ここでは、もろもろの仏は成仏以前の修行時代に、四つの広大な誓願を發し、人々を利益し迷いを断じさせ、法門を覺知して成仏することを願うが、人々を利益し迷いを断じさせる「利生の願」はなかなか満足することができない

とする。そして『法華経』こそ十界のすべてがごとごとく成仏する教えなのであるから、すべての衆生を救うという仏の本懐を満足した教えであるという内容なので、『爾前二乗菩薩不作仏事』における検討に直接結びつく一節であることはいうまでもない。

次に『爾前二乗菩薩不作仏事』では『速証仏位集』巻一の冒頭から引用する。

又云第一明三妙経大意者諸仏唯以二大事因縁故出現於世説一切衆生悉有仏性。聞法観行皆当作仏。抑仏以何因縁説。十界衆生悉有三因仏性。天親菩薩仏性論縁起分第一云如来為除五種過失生五種功德上故説一切衆生悉有仏性。謂五種過失者一下劣心。二高慢心。三虛妄執。四謗眞法。五起我執。五種功德者一者正勤。二者恭敬。三者般若。四者闍那。五者大悲。疑無生。故不能發菩提心。一名下劣心。謂我有性能發菩提心。名高慢。於一切法無我。中作有我執。名虛妄執。違謗一切諸法清淨。智惠功德。名謗眞法。意唯存己不。欲憐憐。一切衆生。名起我執。翻對此五。知定有性發菩提心。(昭和定本) 一四七頁(會)

ここでは、諸仏は一大事の因縁のためにこの世に出現し、一切衆生悉有仏性と説いたのであるとする。そして、そもそも仏がどうして三因仏性を説いたのであろうかという点について『仏性論』から「仏は五種の過失を除き五種の功德を生ずるために、一切衆生悉有仏性と説かれた」という見解を引用した上で、五種の過失と五種の功德について取り上げ、この五種の過失をひるがえし、もとより仏性があることを知って菩提心を起こすべきであるという。

この『速証仏位集』巻一では、『観心本尊抄』に引用される『摩訶止観』の「止観第五云夫一心具十法界一法界又具十法界百法界一界具三千種世間百法界具三千種世間此三千在一念心若無心而已介爾有心則具三千」等と引用され

『爾前二乗菩薩不作仏事』と『速証仏位集』について（関戸）

るほか『法華経』方便品・寿量品および『無量義経』などが頻繁に引用されており、日蓮聖人が『速証仏位集』に着目した一端がうかがわれる。

なお、『爾前二乗菩薩不作仏事』は「菩提心」の語で終わっているが、写本によればすぐあとに「是名正懃」とあり、続けると「この五に翻対して定めて性有りと知りて菩提心を発す。これを正懃と名づく」と読めるので、『爾前二乗菩薩不作仏事』の引用は不自然に途中で終わっているような感じがある。

おわりに

叙上のように、『爾前二乗菩薩不作仏事』は『速証仏位集』の引用で終わっており、それも内容的に不自然で、途中で終わっているような感じがある。また、『仏性論』の引用は『速証仏位集』の文中にあるものと推察される。

今後『爾前二乗菩薩不作仏事』について論じるに際しては、以上のような点を念頭に置くべきことが指摘できたと思われる。

註

※『速証仏位集』の写本閲覧に際しては叡山文庫の方々に御高配を賜った。ここに記して感謝申し上げます。

(1) 卷三十六・四十九丁左。なお『爾前二乗菩薩不作仏事』と『速証仏位集』の関連については拙著『日蓮聖人教学の基礎的研究』二八七頁を参照されたい。

(2) 卷十五・三十五丁。

(3) 『正藏』三十一卷七八七頁a、b。

紙数 墨付二十九丁

縦二十四・五センチメートル 横十七・〇センチメートル

山門東塔南谷

浄教房

(表紙)

速証仏位集

至八 八卷

真如藏 四十九劔

」

山門東塔南谷

浄教房

真如藏 四十九劔

(二丁表)

速証仏位集第一

第一明妙經大意者諸仏唯以一大事因縁故出現於

世^ニ說一切衆生悉有^レ仏性^ヲ聞法修行^{スルモ}皆當^シ作^シ仏抑

仏以何因縁說^シ十界衆生悉有^ニ因^ニ仏性^ニ天親菩薩^ノ性論縁起分第一云如來為^シ除^ク五種過失^ヲ生^ス五種功德^ト

故說^ニ一切衆生悉有^ニ仏性^ト已^上謂^フ五道過失者一下劣心

二高慢心三虛妄執四謗真法五起我執五種功德者

一正勤二者恭敬三者般若四者闍那五者大悲疑^ハ我^ハ

無性故不能^レ發^ス大菩提心一名下劣心謂^フ我有性不能^レ發^ス大

【爾前一乘菩薩不作仏事】と『速証仏位集』について(関戸)

(二丁裏)

「爾前二乘菩薩不作仏事」と「速証仏位集」について（関戸）

菩提心一名高慢於一切法無我中作有我執名虛妄執

違謗一切諸法清淨智惠功德名謗真法意唯存

己不欲憐一切衆生名起我執翻對此五知定有性発

菩提心是名正勲知皆有性不輕於他是名恭敬通

達生法二空真如真諦智惠是名般若了知真善妙

有功徳俗諦智惠是名闍那不隔一切彼此衆生慈念

平等是名大悲為除彼五障令得此功德故如來宣説

悉有仏生法衆生未聞悉有仏性不知自陰必当成仏

故於此身生下劣心想不能発故如來說皆有仏性不応

退屈捨下劣心発正勲心若有衆生聞説仏性雖能発心

不知皆有故便自謂我有仏性発菩提心他不能発故如來

説皆当作仏不応輕賤捨輕慢心生恭敬心乃至未説

平等一性不悟自他同体深起自愛永妄利他故如來說

仏性本真捨離我執発起大悲成就衆生令証菩提云々

第二釈妙経名者三軌妙故々名妙法然其三軌即三般若

謂真性軌是実相般若觀照軌是觀照般若資成軌

是文字般若具如釈彼境智行三妙之相也方便云止々ヤミナム

（二丁表）

（二丁裏）

不須說我法妙難思又同品云是法不可示言辭相寂滅者即実相般若又同品云唯仏与仏乃能究竟又

同品云我及十方能知是事又同品云我所得智惠微妙最第一者即觀照般若也寿命品云我常知衆生

行道不行道隨応所可度為説種々法又同品云欲令

生諸善根以若干因縁譬喻言辭種々説法云々即是

文字般若又方便品云如來知見広大深遠者広大深

遠即実相般若如來知見称於広大深遠之境即觀

照般若又同品云如來方便知見波羅密皆已具足者即

文字般若也三智在一心中不縦不横具則理性三般若乃至

妙覺究竟三般若也又蓮譬実相般若華譬觀照般若

若鬚譬文字般若也 第三力用者夫今妙經有

義生不可思議力也無量義經十功德品云第二是經不可

思議功德力者若有衆生得聞是經者若転若一句則

能通達百千億義無量数劫不能演説所受持法所以

者何以是法義無量故善男子是經譬如從一種子生

百千万々々中一々復生百千万数如是展転乃至無量

(三丁裏)

(三丁裏)

『爾前一乘菩薩不作仏事』と『速証仏位集』について(関戸)

『爾前一乘菩薩不作仏事』と『速証仏位集』について（関戸）

是經典者亦復如是從於一法生百千義々々々中一々復

生百千萬數如是展轉乃至無量無辺也義云々同經說

法品云無量義者從一法生其一法者即無相也云々止觀

第五云夫一心具十法界一法界又具レ十法界百法界ヲ一界具

三千種世間百法界具三千種世間此三千在一念心若無レ

心而已介爾有心則具三千亦不言心在前一切法在後亦不

言一切法在前心在後乃至只心是一切法々々々は心故非縱

非橫非一非異云々記一云無尽不可數知云々妙經方便品

云諸仏智恵甚深無量其智恵門難解難入云々此明

体内実智甚深無量准例權智甚深無量也止觀

五云如々意珠天上勝宝状芥粟有大功能淨妙五

欲七宝琳琅非内蓄非外入不謀前後不忤多少

不作龜妙称意豊儉降雨穰々不添不尽蓋是色レ

法尚能如此況心神靈妙寧不具一切法耶云々

（四丁裏）

速証仏位集第二

第一明於妙經大意依四時七教方便顯醍醐一実妙

經此破法相宗、三時教相立天台宗五時教也。夫法相

宗、大唐玄奘三藏所傳也。即是玄奘承中印度摩

揭陀國大毘蘭陀寺、戒賢論師戒賢、遠承彌勒

菩薩無著世親近、承於彼護法論師、及以難陀玄奘

三藏有四弟子、坊尚光基也。慈恩師有弟子名号

惠昭々々、禪師有二弟子智周、聰俊也。今來学徒承

慈恩師、然以楞伽深密等、六經瑜伽唯識等、十一部論、

以為依憑、但依解深密經、勝義生菩薩、領解立三時教

一人空法有教、二人法皆空教、三非有教也。又一四諦法輪

教、阿含二無相大乘經、般若三了義大乘教也。深密第一時、以

四諦相傳正法輪、第二時以陰密相傳正法輪、第三時

以顯了相傳正法輪也。今宗難云、無量義經云、我先道

場菩提樹下、乃至觀一切法不可宣說、第一花乃至轉四諦

法輪、第二阿含也乃至次說方等十二部經、摩訶般若、第四花

嚴海空、乃至于今日演說大乘無量義經等、文玄文

引大經云、從仏出十二部經、從十二部出修多羅、從修多

羅出方等、從方等出般若、從般若出涅槃、云々下此是後

(五丁表)

『爾前二乘菩薩不作仏事』と『速証仏位集』について(関戸)

『爾前二乘菩薩不作仏事』と『速証仏位集』について（関戸）

番五時次第前番五時准望之也亦譬乳酪生蘇熟

醍醐味也是故当知法相宗意全段第一第五二時甚

為不了亦以般若為方等前文義甚非然今宗意更

依四時七教助道顯於妙法出世本懷云々第二釈妙經

名者夫点実相為第一義空名空為縱第一義空即是

実相々々不縱此空豈是縱点実相為如来藏名之為橫

如来藏則実相不橫此藏豈橫故不可以縱思不可以

橫思故名不可思議法即是妙也亦点空藏為実相空

縱藏橫実相那不縱不橫亦点空為如来藏空既不橫

藏那得横点如来藏為空藏既不修空那得修点実

相為空藏実相非縱非橫空藏亦非縱非橫宛転相

即不可思議故名為妙点如来藏為廣点第一義空

為高故言其車高広如来藏即実相故其車非広

第一義空即実相故高只実相是空那得非高只

実相是如来藏那得非広又点実相為如来藏故言衆

宝広狭又僕從而侍衛之点実相第一義空故言有

大白牛肥状多力行歩乎正其疾如風智恵無染名為

（六丁表）

（六丁裏）

白能破惑故名為多力中道惠名乎正入無切用故其
疾如風不思議三法共成大事事也云々云々 釈籤五云若具足存七八中

（七丁表）

中間兩句応云空藏々々実相為空実藏為藏則成三
對六句也又蓮譬実相花譬第一義空鬚譬如來藏

也第三明力用者列妙經廿重力用只本門開迹顯本
力用者此就教法亦約理体先約教者序品文殊所歎

燃燈仏事方便品從久遠劫來讚示涅槃法又宝塔品分

身來集事如此亦說即顯体意ナリ然其惑者未悟未悟云々有

今若顯体只不廻就余遂開迹示其本要耳須約理

者但除觀其方便事迹即顯真実之本也寿命品云

我実成仏已來久遠若斯但以方便教化衆生令人仏道

夫人即於得本也分別品云爾時大会聞仏說寿命

劫数乃至得大饒益云々又云聞仏寿命長遠如是乃至一

念信解所得功德無有限量云々又云聞我說寿命深心

信解則為見仏常在著闍崛山共大菩薩諸声聞衆

圍遶說法又見此娑婆世界其地瑠璃云々今此文意即

此同居見彼界外方便実報云々

『爾前一乘菩薩不作仏事』と『速証仏位集』について（関戸）

「爾前二乘菩薩不作仏事」と『速証仏位集』について（関戸）

速証仏位集第三

（八丁裏）

夫為開六道凡夫四執三教聖人四誹謗故仏出於世
謂常見外道有見 転成応仏智斷見外道無見 転
成報仏智亦有亦無見 転成中道双照有仏無仏
性相常然法身智非有非無見 転成中道双非法如人
境非因非果法身智云々藏通二乘斷無誹謗 転成報
仏藏通菩薩建立誹謗 転成応仏別人地前但中異
謗 転成双非不異智法身別人地前双照尽謗 転

成双照不尽智法身開示悟入四句四種觀心四門四智

（八丁裏）

四位暢今四執四謗開顯是名一大事因縁也云々夫為開

六凡外道四顛倒藏通賢聖四不顛倒別人地前不融

四德故出世也夫先仏所説法花経中十界依正常樂我

浄之名義至 于末法在名無義未達人師偏執學者

不知義味如彼融通師資相承 繼後仏世今阿含時

説二乘若空無常無我四不顛倒对破外道常樂我浄

四倒次方等時説菩薩常樂我浄对破二乘四倒次般若

時冥成別人執地前出飯時所令聞之地上不融四德（九丁表）

『爾前二乘菩薩不作仏事』と『速証仏位集』について（関戸）

夫為開衆生一心三諦三心三觀故出世也己心内性空

諦寂照空成報仏寂成惠眼根等照成一切智也己心

別相假諦寂照仮成応仏寂成法眼等照成道

種智己心中諦中道寂照中成法身寂成仏眼根等

照成一切種智云是名一大事因縁也云大意者顯衆教行

理通別故說今縁也施權四時七教々々行証通別已受

今縁一円故教行理通也隨情說修故教別行別隨

情智說修隨智說故亦教行別所謂序正流通法

譬因縁不移本習而示真實漸不定頓行故也無

相妙理隨情隨智隨智假立異名花嚴法界方等

不思議解脫般若不共般若涅槃仏性法花実相也

三中教行急也二中行最急也行者一諦惠三諦

行処也三諦相応戒定惠親近処也云々四三昧中隨

自意行觀心念仏初心急也云大意者開衆生六界

会実相理内故說法花也土夫六界者地堅水温

火煖風動空竅隙或明闇識界有漏識有情生

所依廻三十九界無常六界入寂光仏界常住六界是

（十一丁表）

（十丁裏）

故經云是法住法位世間相常住或云無量義者所生

一法或云乃能究盡諸法実相六界内外兩間相性

体空仮中理無始本来三身三心六根三觀六識三諦寂

光云々是名一大事因縁也云々大意者開九界凡夫三土世

間会仏界寂光出世故說今經也故經云世間相常住

今且開人廻田商仕工成常樂我淨也田者五穀九穀 (十一丁裏)

耕作農業順妙經故轉成妙行也商者商估沽却

出入息利興賤順法花故變作善行也仕者六臣百

司千乘万乘仕官婦仏乗故隋成仏行也工者身工

巧語工巧意工巧貴妙法故増成仏三身徳也彼六義

六体八階九品四病八病之倭歌三憤五典八素九丘

八輕七梅八対八病之討賊忠孝五行六芸五経五常

四韋陀典十八大経天文地理医方卜相兵法貨

易之世智入実相之理故也 (十二丁表)

速証仏位集第四卷

夫仏為顕四重妙法出現於世説法花也謂三諦止惡

『爾前二乘菩薩不作仏事』と『速証仏位集』について (関戸)

『爾前一乘菩薩不作仏事』と『速証仏位集』について（関戸）

戒聖行也三諦寂靜完聖行也三諦照明惠聖行也

三諦相応慈悲行也心性本覺空仮中理常樂我

淨常寂光土相性諦理法報心仏三種慈悲本誓

願故寂光三身從本垂迹応同四門拔苦与樂引入

寂光同住秘藏抑中道相応接律儀戒心障中

惡無明双非業実報苦道也空諦相応接善法

戒止障空惡見思有漏業同居苦道也仮諦相応

饒益有情戒止障仮惡塵沙無漏業方便苦道也

真諦三昧息行妙生惠眼根等俗諦三昧停止行

妙生法眼根等中道三昧对不止止生仏眼根等空

諦觀惠貫穿行妙生一切智仮諦觀惠觀達行

妙生道種智中道觀惠对不止觀生一切種智空

正諦報身仮正体心身中正体法身報仏空諦法

縁慈悲拔他見思等惑業苦与他報仏惠眼根等

心仏仮諦相応生縁慈悲拔他塵沙等与他心仏

法眼等法身中道相応無縁慈悲拔他無明等与也

法身仏眼根等法縁大悲熏空諦智法縁大慈

（十二丁裏）

（十三丁表）

薰空諦、完生緣、大悲薰、假諦、智生緣、大悲薰、假諦、

定、無緣、大悲薰、中道智、無緣、大悲薰、中道、定、拔衆生

煩惱、與衆生、樂、云々、是名、一、大事、因緣、故、出現、於、世、云々、大意、

者、令、知、七、重、二、諦、二、智、故、說、今、經、也、夫、施、權、之、昔、四、教、三、

接、真、俗、二、諦、權、實、二、智、開、顯、之、今、跨、節、二、諦、超、八、

二、智、ナリ、玄、三、云、但、点、法、性、為、真、諦、無、明、十、二、因、緣、為、俗、諦、籤、

釈、云、只、点、一、法、二、諦、宛、然、經、云、諸、仏、智、惠、甚、深、無、量、

又、云、如、來、知、見、広、大、甚、遠、凡、迷、真、以、前、性、德、本、住、法、

妙、覺、以、後、修、德、自、証、法、言、思、路、絶、離、名、相、故、名、妙、理、

名、實、相、名、真、諦、也、発、心、以、後、証、道、以、前、假、名、相、施、設、

三、諦、絶、言、四、句、百、非、故、名、俗、諦、也、照、一、理、故、名、實、智、也、照、

三、諦、事、名、權、智、也、若、寄、中、道、談、理、智、時、非、如、非、異、名、

真、諦、双、非、照、了、名、實、智、中、道、体、内、空、假、名、俗、諦、双、

照、智、用、名、權、智、也、云々、一、大、事、開、示、悟、入、惣、別、横、堅、相、冥、

相、即、令、知、二、諦、二、智、也、云々

(十三丁裏)

(十四丁表)

速証仏位集卷第五

『爾前一乘菩薩不作仏事』と『速証仏位集』について(関戸)

『爾前一乘菩薩不作仏事』と『速証仏位集』について（関戸）

夫為令他得六根喜故說妙經也開仏界惠眼等縁

四土十界六塵妙空開円仏肉眼等天眼等法眼等縁

法界妙有開仏眼等縁法界妙中亦有亦空非有非

空也見聞臭嘗覺知 未曾有妙色声香味觸法

因果依正故也 第二釈名国土世間衆生世間各其

内性真諦即空斷空三障常樂我淨常寂光土

身智解脫眼智慈悲 謂法門身觀照般若実恵

解脫惠眼根等一切智妙法縁慈悲是也国土衆生

外相諦斷仮三障四德寂光色身文字般若方便

解脫法眼根等道種智生縁慈悲是也身土中体四

得寂光実相身実相般若真性解脫仏眼根等一

切種智無縁慈悲是也国土三諦衆生三諦性善

性悪更互具足 隨縁転反無定性故不可思議依

正三諦更互相冥融通無礙 不分別故不可思議身土

三諦更互相即 三只是一無着別故不可思議迷真似

前性徳本住 依正身土妙覺以後修徳自証依報正

報三諦体用無相妙理 故名妙法蓮華經也 又化他

（十四丁裏）

（十五丁表）

指歸三德秘藏無言無念也云々第三力用謂除六弊」

六度円滿滅慳貪弊福德莊嚴滅破戒弊六根具

足滅瞋恚弊相好端嚴滅懈怠弊神通大力滅

散亂弊六根寂靜滅愚癡弊六識照明云々無量

義經云雖未得修行六波羅密々々々々自然在現云々

三諦六弊轉成三身六度也云々第一唯今經力滿仏

下化衆生願故出世説之所謂諸仏因位四弘願利生

斷惑知法作仏然因円果滿後三願滿利生一願甚

為難滿彼花嚴力不能十界皆成仏道阿含方等般若」

不爾後番五味不能皆成仏道本懷今此妙經十界皆成

仏道分明彼達多墮無間授天王仏記龍女現成仏十

羅刹女悟仏道阿修羅授成仏惣記人天二乘三教菩薩

入円妙仏道經云如我昔所願今昔已滿足化一切衆生皆

令入仏道衆生界不盡故雖未入仏道衆生然十

界皆成仏道唯在今經力故為利生本懷也云々第二釈名

三土依報九界正報四教迹仏各其因縁所生法故

内外両相性体法即空仮中常樂我淨寂光土眼」

(十五丁裏)

(十六丁表)

「爾前二乘菩薩不作仏事」と「速証仏位集」について(関戸)

「爾前一乘菩薩不作仏事」と「速証仏位集」について（関戸）

智慈悲法報応仏ナリ此則釈迦ノ久成四德寂光無作三身

（十六丁裏）

相冥相即絶言絶念無相妙理故名妙法蓮花經也

第三力用イハ謂感十大果三德妙理イハ大四弘誓願大定惠

莊嚴大三障智斷大通塞遍知大無作道品大対治妙

用大次位權実大安忍利益大法愛無住大也云々今

此十大ニ一々皆是摩訶止觀故大多勝故空仮中ニシテ一々

皆具定惠慈悲空諦報仏六根福徳法縁大慈与

衆生樂六識智徳法縁大悲拔衆生苦仮諦応」

仏六根福徳生縁大悲与衆生樂六識智徳生縁大

（十七丁表）

悲拔衆生苦中道法身六根福徳無縁大慈与衆生

樂六識智徳無縁大悲拔衆生苦法身二益アリ亦有亦

空門非有非空門拔苦与樂云々四門十乘転成三身

十大果也云々夫為開九界十八界会ムカ三身十八界故説

今經也法身ハ十八界アリ謂亦有亦空ハ亦中道ハ仏眼根

仏耳根仏鼻根仏舌根仏身根仏意根ハ仏眼識ハ至

仏意識非有非空ハ双非中道ハ仏眼根ハ至仏意根ハ仏

眼識ハ至仏意識也色声香味触法ハ亦双非也報

（十七丁裏）

身十八界惠眼耳鼻舌身意根識色声香味触法

空也応身六根六識六境内眼耳鼻舌身意根

識也色声香味触法塵境細境妙有境也俱舍論

云愚根樂三故説蘊処界三大經云転無常色

獲得常色受想行識亦復如是無量義經云無復

諸大陰界入此転三十九界苦空無常無我五陰十二

入十八界成寂光仏界四德十八界也第一為報

一切衆生恩德故出世説之夫迷真以來輪環六道唯

不生色界第四禪五那含天非不還果故不生兜率

天内院彼不退処故也梵網經云故六道衆生皆是我

父母心地觀經云或為父母為男女生々世々互有

恩正法念処經云四恩者一母二父三如来四説法師

已上葉王葉上經云四恩一父母二衆生三国王四三宝已上

世典彦云大國賢王誠民五品下々犯禁獄下犯放

爪中犯欠鼻上犯貫勢上々犯刎頭五刑之外不孝

甚重無昨三身住寂光土三眼三智知見九界垂迹施(十八丁裏)

權後説妙經令昔恩者皆成仏道第二釈名三十九

【爾前一乘菩薩不作仏事】と『速証仏位集』について(関戸)

(十八丁表)

「爾前二乘菩薩不作仏事」と『速証仏位集』について（関戸）

界四時七教、心仏衆生、体狭位下用短、今此經、明寂

光仏界、円頓、因果、心仏衆生、一々体広、空板中道遍

法界、故一々位高、法報心仏遍因果、一々用長、因

位、三諦戒定惠行、遍破三障、故果位、三身生法無緣

三種、慈悲、遍破衆生、三土、三障、故也、体位用妙、故名妙

法也 第三力用 妙法経、力令聞衆生入実報土時得

七浄也 一同体浄二自在浄三莊嚴浄四受用浄五住

処浄六因浄七果浄也、浄名疏云、五是体満有体相

用六是因、円七是果満、上名出花嚴十地品也、迹門、明

弟子、真因、本門頭師、真果也、通論、本迹各有師弟

權因權果、実修実証、但有傍正、隱顯不同、今私

竊作一料簡云、先同体浄者三法身同体、与彼此衆

横約同位、実相法身同体、法身同体、色相法身

同体、次自在浄者三解脱自在、真性解脱自在、実惠

解脱自在、方便解脱自在、次莊嚴浄者三般若、莊嚴

実相般若、莊嚴觀照般若、莊嚴文字般若、莊嚴次

受用浄者三身六根受用、六塵、三諦、次住処浄者三身

（十九丁表）

（十九丁裏）

三諦寂光土次因淨者当分、無得道故次果淨者当分
解脫道故然淨者略也、雖三障、無常苦無我不淨得
三德常樂我淨故也

速証仏位集卷第六

以実言之報身六根六識六境住空諦四德常寂光土

(二十丁表)

応身十八界、仮諦四德寂光兩方、双非兩種法身、

根境識、住兩亦双非、二中、四德寂光也、云々三身三土並

法界故依正空一依正反一依正中一前仏後仏同体同

用即一而三即三而一亦三亦一非三非一不縱不横不一不異

無名無相無言無念不可思議亦不可思議故、云々經云止々々不

須説我法妙難思、云々夫如来法王為施恩德故為一切

衆生説法花經也、夫守理、名レ人施、名レ人施、名レ仁、故龍樹菩薩「

智度論云以理而為人、不以形為人、トス一簣一云、惡是破、非所
(二十丁裏)

為故不立人名、云々大般若經云、為惡行者名為半人修

善行者名為滿人、取意、凡上勝者、哀下劣者、無始法爾礼

法道理、彼赤因、大冥現死願、飢饉、人毒蛇虫、忍死救

「爾前二乘菩薩不作仏事」と「速証仏位集」について(関戸)

「爾前一乘菩薩不作仏事」と「速証仏位集」について（関戸）

餓虫命也、廉王捨身代、奸廉命、禹王作橋度群屬、

人王行幸處、必授采利地、居天主、釈王說十善論、憶イノミ

釈余衆三界主、梵王說出欲論、令出下界畜王、人王モ

天王施恩既爾、何咒四土主、十界王慈悲心、広施恩必シテ

広、故說円經、施十界恩、法緣慈悲拔空、三障与報仏、
（二十二丁表）

樂生緣慈悲拔、三障与心仏樂無緣慈悲拔中

三障与法中樂余經力、不爾故也、夫顯三身之四弘六度

故、仏說妙經也、所謂空諦、四弘六度則報身、因行、仮諦、

四弘六度則心身之行願也、而亦双非、四弘六度、即法

身、因位行願也、所謂空門、利生、断惑、知法、作仏、是報

身、誓願也有門、利生、断惑、知法、作仏、是心身、誓願也

亦有亦空門、非有非空門、利生、断惑、知法、作仏、是法身、

誓願也、接律儀戒、則法身、力度、則仏眼、六根、被甲

精進、則仏眼、六根、神通、大力、安受苦忍、則六根、端嚴

無畏、施、則六根、福德也、接善法、戒報、身體、真諦、三

昧、惠眼、六根、接善、精進、六根、神通、大力、諦察、法忍、

六根、端嚴、法施、六根、福德、觀照、般若、惠眼、六識也、饒

（二十二丁裏）

益有情戒、心、身体俗諦、三昧願度、法眼、天眼、肉眼、六根、利、樂、精、進、神、通、大、力、耐、怨、悟、忍、六、根、端、嚴、財、施、

福德文字般若方便法眼、天眼、肉眼、六識也、云々大意者、

須衆生、不次第五行、故說今經也、聖行有謂三諦戒聖

行者、離三土、惡、処、生、寂、光、善、処、離九界六根、々、欠備三

身、六根具足、又止三土報障、惡得三法身、善也、三諦定

聖行者、離六根散乱、得三身六根寂靜也、惠、三諦聖

行者、亦離九界六識愚癡、得三身六識照明也、亦名三根

等、亦名三識、三智也、三諦理、天行者、觀自行、妙理、与、戒行同

也、三諦梵行者、慈悲喜是化他、事、行、捨、是、理行也、附傍

別門、初歡喜地時、戒証不動地定、堪忍地、惠証無、

畏地、慈悲喜証、一子捨、証空平等地也、病行、同、惡嬰、(二十二丁裏)

兇行、同、善此二果上、拔苦与樂也、中道、戒定惠、不動地、空諦、

戒定惠、無畏地、假諦、戒定惠、堪忍地也、云々

速証仏位集卷第七

第一仏為願同性、仏子、故說妙經也、仏開、仏眼、一切種

「爾前二乘菩薩不作仏事」と「速証仏位集」について（関戸）

「爾前一乘菩薩不作仏事」と『速証仏位集』について（関戸）

智知見十界衆生之時三土衆生果報々障即是中道

正因仏性故与仏法身種性同一所以欲令成法身仏具」

足仏眼一切種智無緣慈悲也云々又仏開惠眼一切智彼
（二十三丁表）

時三土衆生煩惱障即是空諦了因仏性故与仏報身

同性故欲令成報身具足惠眼一切智法緣慈悲云々又

仏開法眼道種智知見彼時三土衆生業障即是假

諦緣因仏性故与仏応身同性故欲令成応仏具

足法眼道種智生緣慈悲云々經云今此三界皆是我有

其中衆生悉是吾子此性德子名理性眷属也經云

若二十或至三十文此修德子三葉根族也其美障空
三障成報」

中三障成法
仮障成応也第二釈名空仮中道互具其性ヲ隋緣ヲ轉反シテ

不可定判故名為妙法三諦互融シテ難可分別故名為

妙三諦相即シテ境智冥一故名為妙三諦絶言シテ心行処

滅故名為妙三諦寂照性德本住修德自証故四句

百非名相寂滅ヲ故名為妙云々化他指帰故名為妙也云々

第三力用ヲ開經四水喻四時花嚴如菩薩ヲ小雖在座如

聾如啞阿含如池方等如江般若如河今妙經如大

（二十三丁裏）

海水洗垢生露五時教力淺深次第云々夫為令衆生

斷惡。說妙經也。三土報障即空諦故報身成就。三土

(二十四丁裏)

業障即空諦故惠眼根等。三土惑障即空諦故惠

眼識等。又三土報障即假諦故應身成就。三土業

障即假諦故法眼根等。三土惑障即假諦故法眼

根識等云々。又三土報障亦有亦空兩亦中道非有非空

双非中道故法身三土業障兩亦双非故仏眼六

根。三土惑障双照遮照故仏眼六識云々。又三土即空

故報身三土即假故應身三土即中故法身三土云々

開示悟入此依正故說法花也。序正流通詮此旨也云々

(二十四丁裏)

第一大意。為令衆生住室衣座三法方軌說今經也。夫

入如來大慈悲室者通而論之三種慈悲。法緣慈悲

衆生緣慈悲無緣慈悲是也。今別論之俗諦相応

生緣慈悲。拔三土衆生苦集煩惱寂光仏界道滅

樂有三重次第名字即時情出仮。觀行相似初後似

出仮。分真究竟初後真出仮。次坐如來諸法空座者

此亦三重。情人空似入空真入空云々。次着如來柔和忍

『爾前二乘菩薩不作仏事』と『速証仏位集』について(関戸)

「爾前二乘菩薩不作仏事」と『速証仏位集』について（関戸）

辱衣者此兩亦中道双寂中道三昧、双照中道觀智

（二十五丁表）

也且拳兩亦妙用頭双非、妙体非中道、遮寂王三

昧、遮照中道觀智也此亦三重、情似真也云々第二釈名廻

本門、中仏法衆生法、十妙而入己心、三諦用觀察之

時生仏功德成自、善根自行、因果化他、能所心内、円融

所謂絶待因果、国感神説眷涅寿利是也但觀心時置

相待妙唯觀絶待所以一因一切因乃至一益一切益故名妙法云々

第三力用彼室衣座三諦止觀、三諦止行止三土業障

生三解脱善三眼三慈善三諦觀行断三土惑障生三（二十五丁裏）

般若善三智三悲善但三報三業三惑華嚴分約同居土

三障細分、方便実報所顯、淺理寄空諦其深理寄中

道然其理妙、離四句百非又垂迹三身兼名心身其細

分名他受用身入寂光時、名無作三身三眼三智三悲三

慈前仏後仏、不可三縦横一異、而言思之故妙経云

我法妙難思云々

第一大意者根性融不融故化道始終不始終謂仏法外

外道花嚴頓大当初未聞仏法名字次提謂經時

有受持戒善恩次阿含時有斷除見愛恩次方等

時有耽小慕大恩次般若時有轉教大乘恩然根

性融故不論化他始終今法花時根性円融故顯化導

始終有開仏知見恩有引声聞利物恩有普受供

養恩也為説此旨故仏出世説今經也

第二釈名迹門本門教行人理四一八一土故名妙迹門

本門衆生法十妙一仏法十妙一心法十妙一無量妙

唯一法妙一故名為妙所謂一空一切空一一反一切反一

中一切中一理一切理一故心仏衆生名為妙法生仏國

土内外両間相性体妙即空即仮即中故名妙法

第三力用者灯炬星月譬四時教謂花嚴頓部

時二乘如聾如啞如仏法光用如小灯火阿含時

拙度折空觀光如火炬火方等時巧度体空觀

光如星光般若時冥成別人断塵沙惑俗諦觀智

如月光今妙經時一心三觀如日光破化城執教闍草

(二十七丁表)

(二十六丁裏)

「爾前二乘菩薩不作仏事」と『速証仏位集』について(関戸)

『爾前二乘菩薩不作仏事』と『速証仏位集』について（関戸）

庵滯情闇五百由旬実報之障生死無常闇遍

迫苦通闇亦漏亦無漏業道果縛無我闇相応

無明煩惱染行不浄闇独頭無明煩惱染行不浄

闇也云々

速証仏位集第八

于時永享九年也丁巳九月廿二日於台嶺西塔北尾

（二十七丁裏）

花王房遂書写訖為令法久住利益有情也

南無山王大師滿山三宝哀愍護念 尋秀

融通仏法記三卷

速証仏位集記八卷

（二十八丁表）

通達菩提義記一卷

己界衆生界仏界義記一卷

止觀私記十卷

四土不二義記一卷

四土通達義記

法花実相義記三卷

百界千如記三卷

法花覚私記二卷

談義集三卷

迹門義語記一卷

本門融通義一卷

己心中義記一卷

安樂行品私記三卷

四要品私記一卷

權教通達義記一卷

實教真道義記一卷

照了分別義記一卷

隨情智記一卷

隨智記一卷

半与半奪義記一卷

一向隨情義記一卷

法花觀心私記

鹿人細人義記一卷

自利々他心平等義記一卷

自他不二記一卷

一心自行一卷

表裏（白）

（二十九丁）

『爾前二乘菩薩不作仏事』と『速証仏位集』について（関戸）